



## 森林ふれあい情報

平成25年10月  
第 28 号

中部森林管理局木曽森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7  
TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151  
E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

### ボランティアによる木曽駒ヶ岳 植生復元事業

中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺では、登山者の踏み荒らし等や、大量の降雨、降雪、強風による砂礫の移動が原因で植生の荒廃に拍車をかけています。

このような植生の衰退を食い止めるため、9月12日（木）にボランティアをはじめ総勢29名で、植生マット敷設による植生復元作業を実施しました。



今年度の敷設面積は新規140㎡で、極楽平から三の沢分岐周辺と三の沢岳登山道周辺で行いました。

本作業は17年度を皮切りに昨年度までに、延べ1,671㎡（補修を含む）が実行されてきました。



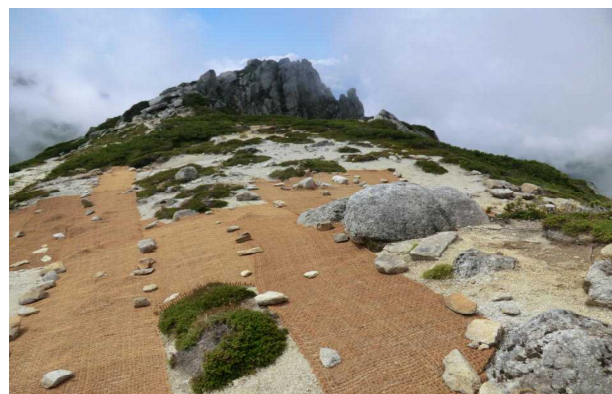
植生マットの敷設、高山植物保護の看板を設置したこと等により、登山者による踏み荒らしの回避、表土の流出防止、砂礫の移動を最小限にとどめる等の効果があり、徐々にではありますが植生が復元し始めています。



現地採取の種蒔き風景



実行中



実行後



参加者



## 阿久比高校森林ボランティア指導

愛知県知多郡阿久比町にある県立阿久比高等学校の生地37名と教師6名が、8月9日に長野県西部地震被災地の「国民の森」で森林復旧を目指して除伐作業を行いました。

被災地、王滝村では平成9年から毎年ボランティア作業をしており、今回で17回目になります。

学校では、「優しい人がボランティアをするのではなく、ボランティアをする中で優しくなっていく」との考えの基、各種のボランティア活動を行っています。

木曽森林管理署の職員から長野県西部地震の説明を受け、当センターの職員と林業大学生のボランティアも加わり6班に分かれて実施しました。短い時間でしたが慣れない乍らも手ノコを使い職員の指導の下、次々と除伐作業を行いました。

みんなのさわやかな笑顔がとても誇らしげで、無事に作業を終えました。



汗を流しながらの除伐作業



6班笑顔で除伐作業終了

## 緑の挑戦者の森林整備指導

木曽郡3町村と森林整備協定を結んでいるNPO法人「緑の挑戦者」約50名が、9月28日に木曽町戸立の町有林で森林ボランティア作業に汗を流しました。

開会式では主催者の同法人伊藤理事長が、木曽郡に来て森林整備作業を行い始めて今年で10年目を迎える旨の挨拶を行い、続いて木曽町の田中町長から歓迎の挨拶が行われました。

当センターでは木曽町の要請を受けて、作業用具の貸し出しと技術指導を行いました。

名古屋方面から駆け付けた参加者は、開会式を終えると待ちかねたように約30年生のヒノキ林の除伐作業とクマ剥ぎ防止テープ巻きに取り掛かりました。

この森林整備作業も、多い人は20回を超えて参加しており、手際よく作業を進めていました。

また、クマ剥ぎ防止テープについては初めて見て、テープがクマ剥ぎの防止に役立つことを聞いて感心している人もいました。

閉会式では、伊藤理事長から森林整備作業の意義などの講評の後、木曽町の吉田産業観光課長から町有林の森林整備に対する御礼の挨拶があり、無事1日の作業を終えました。



つるが巻いた木の除伐作業



クマ剥ぎ防止テープ巻き作業



## 教職員を対象とした森林・林業 体験学習研修会

児童・生徒に森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、教職員向けの森林・林業体験学習会を長野県地方事務所との共催により、8月8日（木）に木曽森林管理署管内の新高国有林で実施しました。

木曽・上伊那地域の教職員計14名の参加の中、午前中は、木曽出身の教員OBで植物に詳しい、楯講師と栩秋講師の案内により御岳山登山道開道口4合目付近の植物を観察し、イワツツジ、タケシマラン等50種類ほどの植物を学びました。



講師による植物の説明

午後の前半は、登山道入り口近くの新高国有林で、実際に高性能林業機械を使用して保育間伐している現場を見学しました。

参加者は、間近に見るプロセッサ、フォワーダなど最新の林業機械の働きに見入っており、感心した様子が伺われました。



林業現場見学

午後の後半は、教職員自ら手作業による間伐を体験しました。

3人1組により、高さ20m近いカラマツの伐倒に挑戦し、安全確認を行いながら交代でノコギリによる伐倒に汗をかきました。



参加者による間伐作業

この研修会は、平成14年度から始まって、今回で12回目の開催となり、参加者からは「貴重な体験ができ、子供たちにもこのような林業現場の見学や伐倒等の体験をさせたい」などの感想が多く寄せられました。



集合写真



カラマツッキー



スーギー



ひーのん

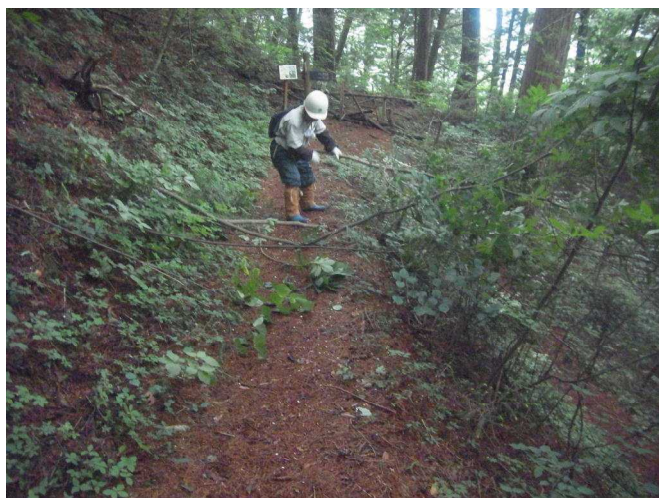


## 史跡の森遊歩道整備支援

木曽町の「城山史跡の森」では、散策に訪れる方々に快適に森林を楽しんでいただけるよう、7月7日に城山史跡の森倶楽部により遊歩道等の整備が行われました。

木曽郡内の企業からの参加者を含め総勢20名で、遊歩道等の草刈りや歩道上の落石・倒木の除去作業を行いました。当センターからも1名が参加し、整備をサポートしました。

参加者は、チェーンソーや下刈鎌、唐鋤を手に2kmにおよぶ遊歩道の整備に汗を流しました。



参加者による歩道整備作業

## みどりの少年団交流会支援

木曽地域のみどりの少年団が一堂に会し、自然の中で交流を深める木曽地区みどりの少年団交流集会が7月29日、県木曽地方事務所の主催で開催され、当ふれあいセンターも支援のために参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されているものですが、今年は生憎の雨のため三岳小体育館を会場に12団体、約100名の団員が参加しました。

4団体による活動発表の後、木や山に関するクイズ大会等を実施し交流を深めました。



## みよし市友好の森 ふれあいツアー支援

愛知県みよし市は、木曽川の恩恵を受けていますが、今年も「友好の森」(木曽町三岳、御岳黒沢国有林841林班の一部を平成12年1月水源林として取得)において、森林保護、環境保全等の啓発や水源地に住む人たちとの交流を図ることを目的に「みよし市友好の森ふれあいツアー」を9月29日に実施しました。

今年は、市民、親子等が40名、木曽町からは14名、関係者を含めて総勢66名が参加し、森林散策を楽しんだり間伐体験に汗を流し、交流を深めました。

当センターは木曽森林管理署職員とともに間伐体験の指導や森林散策の講師を担当する等支援をしました。



森林整備に向かう参加者



## 森林ボランティア作業支援

NPO法人「地球緑化センター」では、市民参加による森づくりを進めていくことを目的に、平成8年、上松町赤沢国有林に協定による「ふれあいの森」を設定して以来、毎年森林整備を実施しています。

6月に続き「赤沢・樹齢300年の森林づくり」をスローガンに、本年度2回目の整備を9月7～8日に参加者17名により実施され、樹齢約50年生の人工林ヒノキの間伐を行いました。

当センターは木曽森林管理署と連携を図り、作業手順及び安全の指導と器材の貸し出しを行っています。

1日目は雨時々曇りの天気の中でカッパを着ての作業となり安全第一を心がけての作業でした。2日目は朝から雨降りとなり、現地には行きましたが作業は危険と判断し、中止して下山となりました。



雨の中の集合写真



間伐作業

## センター事務所に「木曽五木」の看板を整備

当センター事務所では道路沿いに、木曽五木（ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキ）を一本ずつ植栽していますが、道行く方々に親しみのある表示をしたいと考え、五木それぞれの樹種で樹名板を、天然ヒノキで「木曽五木」の看板を作成しました。

作成に当たり、材料は木曽森林管理署から調達し、材料の加工・文字入れは地元の木曽青峰高校に依頼しました。木曽青峰高校では森林環境科3年生と宮下教諭が作成に当たり、7月に完成し、当センターで設置しました。

今後とも、地元高校生が丹精込めて作った看板を末永く見守りたいと思います。



木曽五木の全景



「木曽五木」の看板



「さわら」の看板